

適塾特別展示

緒方洪庵



洪庵・適塾と蘭書



適塾



ゾーフ辞書



◎場所 **適塾** (史跡・重要文化財)
(大阪府中央区北浜3丁目3番8号 電話06-6231-1970)

◎期間 **2012年5月29日(火)～6月10日(日)**
午前10時～午後4時(月曜日休館)

◎入場料 一般250円・学生130円・生徒および大阪大学の学生 無料
(130円) (70円) () 内は20人以上の団体料金

交通/京阪電車淀屋橋駅・北浜駅、地下鉄御堂筋線淀屋橋駅より徒歩5分

■主催/大阪大学適塾記念センター・適塾記念会



適塾特別展示

洪庵・適塾と蘭書

緒方洪庵

2012

5/29(火)~6/10(日)

午前10時~午後4時(月曜日休館)



ドネウス「草木誌」

緒方洪庵は、医師として様々な医療活動を行いました。天然痘の予防活動やコレラの治療指針の普及がその代表的なものです。このような洪庵の活動を支えたのは、オランダ語で書かれた書物(蘭書)から得た西洋医学の知識でした。大阪大学適塾記念センター・適塾記念会には、緒方洪庵が『病学通論』やコレラの治療書『虎狼痢治準』を書く時に参考にした蘭書が、現在でも保存されています。

医学書のほかに、当時の適塾には物理学や化学、博物学といった分野の蘭書があり、塾生たちは、上級に進級すると、このような蘭書を読んで勉強していました。適塾で使っていた辞書には、有名な「ゾーフ辞書」のほか、ウェイランドの6巻本の辞書があり、また入門したばかりの塾生たちは、オランダ語で書かれたオランダ語文法入門書から学び始めました。

今回の特別展示では、緒方洪庵や適塾生にゆかりのある蘭書のほか、江戸時代の蘭学の中で大きな役割を果たした蘭書も併せて展示し、オランダ語書籍が持っていた意味を考え直したいと思います。



適塾



- ◎場所 適塾(史跡・重要文化財)
(大阪市中央区北浜3丁目3番8号 電話06-6231-1970)
- ◎入場料 一般250円・学生130円・生徒および大阪大学の学生 無料
(130円) (70円) ()内は20人以上の団体料金
- ◎交通 京阪電車淀屋橋駅・北浜駅、地下鉄御堂筋線淀屋橋駅より徒歩5分

主催/大阪大学適塾記念センター・適塾記念会



大阪大学

適塾特別展示

洪庵の訳述書とその原書

■Enchiridion medicumと『扶氏経験遺訓』

ドイツのベルリン大学教授フーフェラント(C.W.Hufeland:1762-1836)が著したEnchiridion medicum, oder Anleitung zur medizinischen Praxis(『医学必携、臨床入門』1833年)は、当時の内科書として最高水準のものでした。緒方洪庵は、ハーヘマンJr.(H.H.Hageman Jr.)によるその第2版(1836年版)のオランダ語訳Enchiridion medicum, Handleiding tot de Geneeskundige Praktijk(『医学必携、内科臨床ハンドブック』1838年)を重訳し、『扶氏経験遺訓』と名付けて刊行しました。全30巻の出版が完結したのは文久元年(1861)のことです。

(適塾記念会・大阪大学所蔵)



扶氏経験遺訓

ENCHIRIDION MEDICUM

■『虎狼痢治準』の成り立ち

安政5年(1858)秋、大坂でコレラが大流行した際、緒方洪庵は急ぎ『虎狼痢治準』を出版してコレラ治療の指針を示しました。執筆期間は、わずか5~6日間でした。同書では、松本良順の書いた「ポンペの口授」のほか、モスト、コンラジ、カンスタットのそれぞれの医学書の訳を別々に引用しています。今回は、『虎狼痢治準』とともに、洪庵が引用したカンスタット(Carl Canstatt)のDe bijzondere ziekte-en genezingsleer, unt een klinisch standpunt bewerkt

(『臨床よりみた奇病とその療法』1848年)を展示します。

(いずれも適塾記念会所蔵)



虎狼痢治準

臨床よりみた奇病とその療法

蘭書と塾生の教育

■ガランマチカとセインタキス

適塾の塾生たちは入塾するとまず上級生から、オランダ語の文法書である『和蘭文典前編』(通称ガランマチカ、1842年)と、文章論の教科書である『和蘭文典後編』(通称セインタキス、1846年)を教えてもらいました。表紙にこそ日本語の題名が与えられていますが、あとは全編オランダ語で書かれています。往時の塾生たちはいきなりオランダ人のためのオランダ語文法書を学んだのです。

(いずれも適塾記念会所蔵)



オランダ語文章(セインタキス)



和蘭文典(ガランマチカ)

■ゾーフ辞書

長崎の出島に約10年間滞在し、オランダ商館長もつとめたゾーフが、日本人通詞と協力して編集し、1833年に完成した蘭和辞典です。適塾にも写本が1セット備えられ、塾生たちは先を争うようにしてこの辞書を引きました。福沢諭吉は『福翁自伝』の中でこの辞書のことを「蘭学社会唯一の宝書」と述べています。

(大阪大学所蔵)



ゾーフ辞書

■『適塾熟語箋』

「適塾熟語箋」は、オランダ語の単語・熟語と、それに対応する日本語訳を記したものです。適塾でオランダ語の学習を行う必要上、塾生らにより作成されたものと思われます(年未詳)。表紙に「Diqúgozen in Tekidúk verzamelaë」と記した紙が貼られています。

(適塾記念会所蔵)



適塾熟語箋